

香川 寛作業療法士(OT)が、内閣府の共生社会政策で 10月7日から10日間、イギリスに研修に行きます。

介護老人保健施設ベルローゼの香川 寛^{かがわ ゆたか} 作業療法士(33歳)が、内閣府の政策で次世代の社会活動の担い手の育成を目的に実施している「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」の派遣メンバーに選ばれ、10月7日～16日まで、イギリスの高齢者施設などを訪問します。



内閣府では、多様な個人が能力を発揮しつつ、自立して共に社会に参加し、支え合う「共生社会」を築くために、社会活動の中心的担い手となる青年リーダーの能力向上や世界各国とのネットワーク形成を目的に「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」を実施しています。プログラムは高齢者・障害者・青少年の3つの分野があり、今回は下記の内容で各国を訪問し活動を行います。

分 野	テ ー マ	訪 問 国	人 数
高齢者	「生きがいのある高齢者の生活」	イギリス	団長1人、青年8人
障害者	「障害者の社会参加のための支援」	デンマーク	〃
青少年	「ユースワーカーの育成のあり方」	ドイツ	〃

プログラムに参加できる人は、それぞれの分野で3年以上の活動歴のある23～40歳までの人で、香川OTは広島県や内閣府の難関な選考試験をパスし高齢者分野の1人に選出されました。

事前研修、出発前研修、本研修、帰国後研修トータル17日のプログラムで、個人の小遣いや保険などを除いてはすべて国費でまかなわれます。上記の大テーマとは別に団の個別テーマを設け、ロンドン、ブリストルの保健省や市民社会庁、老人支援団体、ケア付きシェルタードハウジングなどを訪問します。

香川OTは「常日頃から日本に浸透しているケアに、これでいいのか？と疑問符をつけながら取り組んで来た。イギリスはコミュニティケアが進んでおり、ケアをされる側の意識とケアをする側の意識が高いことが推測される。どのようなサービスがあるかの情報開示もしっかりされており、国が進めるサービスのあり方と実態がマッチしているか確認したい。福祉先進国イギリスの実情を学び、今後の老人ケアのヒントにしたい」と意気込んでいます。

香川OTは2011年3月にも自費でオーストラリアに老人ケア研修に行くなど、自己研鑽に努めています。